

学番	69	県立高田農業高等学校
----	----	------------

令和4年度

学校自己評価表(報告)

学 校 運 営 計 画						
学 校 運 営 方 針	(1)「新潟県農業教育発祥の地」として培われてきた伝統と校風を継承し、地域農業を担う人材育成の拠点校として、持続可能な魅力ある農業教育を推進する。 (2)校訓「思索正知」、「礼讓信義」、「自主自律」のもと、高農生のうりである「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢を浸透させ、豊かな教養、人間性、進取の気性を身につけた勤労を貴ぶ人間を育成する。 (3)社会人となる基盤を培う学校として地域や保護者と連携した組織的な教育を実践し、その教育活動を積極的に発信し、地域・生徒・保護者から信頼され、選ばれ続ける学校を目指す。					
	昨 年 度 の 成 果 と 課 題	年度の重点目標	具体的目標			
	・新型コロナウイルス感染症の影響により、制約はあったものの、インターンシップや各種研修を実施することができ、進路に対する意識を啓発することができた。今後は、適性検査等の結果を担任と進路指導部で共有し、進学・就職とも進路のミスマッチが起こらないよう指導に留意していく。また、基礎学力を定着させ、進学希望者の学力の底上げを図るとともに、進学意識を高めていく。 ・授業改善では、ICTの活用によって、わかりやすく質の向上した授業が実施されてきた。更に、効果的な活用方法について職員間の情報共有やICT支援員等を有効に活用し、よりわかりやすい授業を目指す。 ・稲作分野でG-GAP再認証に向けた取り組みを行う。	学習意欲を高める。	主体的・対話的で深い学びの実現に向け創意工夫して授業改善を行い、特色ある教育活動を展開する。			
		責任ある生活態度を育成する。	基本的な生活習慣の確立及びいじめを含む問題行動の未然防止に努める。			
	適切な進路選択ができるよう自分の適性を見きわめる力、適応する力を伸ばす。	職業人として必要な基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。進路情報の収集・提供を適切に行い、早期からの進学指導を充実させる。				
重 点 目 標	具体的目標	具体的方策				評価
学科・コースの教育目標のもと、各分野の知識・技術を習得し、地域の発展を図る実践的な能力と態度を育成する。	(生物資源科) 栽培や飼育の実験・実習を通じて、自らが考えて実践する力を育成する。また、協調性や協働の精神と共にコミュニケーション能力を身につけることにより、社会に貢献できる人材を育成する。	先進農家や農業関連企業へのインターンシップ、各種研修への参加を促し、農業情勢への関心を高め、キャリア形成と幅広い職業観の醸成を図る。	C	B		
		専門科目の学習や課題研究等を通して、地域や農業関係機関と連携して地域農業の魅力と課題を探ることにより、自発的に学ぶ力と課題に対してSDGsの達成に向けた解決策を見出す能力を身につけさせる。	A			
		日ごろの農業学習の成果を農業クラブの各種大会において発揮させ、優秀な成績を収めることができるように努力させる。また、資格取得に積極的に取り組むことにより、アグリマイスター顕彰で認定されるように努力させる。	A			
	(食品科学科) 実験・実習において安全・衛生管理に関する態度を育成する。また、地域や企業との連携を図り、食品関連産業に貢献する人材を育成する。	インターンシップや課題研究などの専門科目を通して、地域や学校外部の企業との連携を深め、生徒に外部との関わりを体験させ、進路意識啓発や職業意識の向上を図る。	A	A		
		プロジェクト発表県大会に向けて課題研究等の指導を強化するとともに、外部から評価を得られる新製品・新技術の開発・製品化を図る。	A			
		資格(料理検定、菓子検定、バイオ技術者検定、食生活アドバイザー)取得のため適切な指導を行い、合格者数の向上・全員の資格取得を目指す。	B			
	(農業土木科) 実験・実習において地域や企業と連携して、地域の教育力を活かした教育を実践する。また、資格取得の取り組みを通し専門性を高め、生徒の関連産業への就労や関連大学への進学を目指す。	資格取得(測量士補、2級土木施工管理技術検定)を指導し、合格者数の増加を図る。	A	A		
		建設業協会をはじめとした関係機関と連携して建設現場の見学や実習を実施し、建設関連産業への関心を向けさせる。	A			
		関係機関と連携を図りながら土木関連企業への就職希望者の支援をする。また、公務員希望者の合格に向けて指導を強化し、合格者の増加を目指す。	B			
	ホームルームやクラブ活動等の集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育て、生徒の希望進路を達成する。	(1学年) 基本的生活習慣を確立し、希望コースが選択できるようサポートする。	日々の教育活動を通じて規律ある学校生活を送ることで、基本的な生活習慣の定着を図る。	B	B	
			挨拶を励行し、清掃活動を積極的に行うよう指導する。	B		
			個人、保護者を含めた三者面談を通し連携を密にし、適切なコース選択を支援する。	A		
(2学年) 進路意識を高め、明確な目的意識を持ち、主体的な学校生活を送れるように指導・支援する。		基本的生活習慣を確実に身につけさせ、場面に応じた望ましい行動ができるよう指導する。	B	B		
		希望進路実現のために基礎学力の定着が大切であることを理解させ、目的を持った主体的な学習が図れるよう指導・支援する。	B			
		自己理解と自己実現・社会貢献とを結びつけ、卒業後の姿を考えさせることにより、具体的な目的・目標を定められるよう進路啓発に努める。	A			
(3学年) 日々の学校生活において、希望進路の実現に向け、自己理解や社会理解をもと、明確な目的意識を持って主体的な取り組みができるよう指導・支援する。また、最高学年としての役割と責任を理解し、学校全体をよりよくする振る舞いを自立的に行えるよう促していく。		卒業後を意識させ、目的ある学校生活を送ることで充実した進路指導へとつなげる。	A	A		
		保護者との綿密な連携を図り、生徒の自己理解と自己実現・社会貢献とを結びつけた希望進路の実現を図る。	B			
		最高学年の自覚のもと、学校行事や部活動において生徒集団全体でリーダーシップを発揮し、望ましい社会集団形成ができるように指導・支援する。	A			
学校の教育目標を達成するため、各分掌が連携して生徒の指導にあたり、自己実現させる。	(教務) 授業時数を確保することにより基礎学力の充実を図り、主体的に学ぶ態度を育成し、学習意欲を高める。 ICT機器等の活用により「わかりやすい授業」が実践できるよう支援し、学びを深めるようにする。 学校行事の円滑な実施に努める。	ICT機器等の活用や観点別評価について、常に授業改善を実施し、生徒の理解が深まるようにする。主体的・対話的で深い学びとなる授業の在り方を教材研究を通して考える。	B	B		
		関係する分掌と連携を図りながら、学校行事がスムーズにいくよう支援する。	B			
	(生徒指導) 「身なりを整え・素直で思いやりの心を持ち・いじめのない高農生」をスローガンとして、学年・クラス経営、各分掌経営と有機的な関連を職員間で図りながら、生徒の自立性・社会性を育てる。	身なり指導、挨拶指導、スマホ指導に重点的に取り組むことにより、生徒の規範意識を育み、規律正しい生活習慣を確立させる。	A	A		
		関係機関と連携を図り機動的な生徒指導体制を推進するとともに、教職員間での情報共有を図りながら、共通理解に基づく統一性のある生徒指導を行う。	A			
		他人への思いやりのある、「いじめ」のない安全・安心な環境の重要性を生徒に認識させ、望ましい学習・生活環境を確立する。	A			
		全職員で生徒指導の目標を共有し、毅然とした粘り強い指導を根気強く行う。	B			
	(進路指導) 生徒一人一人に自己理解と自己実現のあり方を指導するとともに個々の生徒の適性を把握・共有化し、学年・クラス指導と個別指導を組み合わせた指導を行い、希望進路の実現を図る。	就職希望者に対して、職業人として必要な基礎知識やマナーを身に付けさせる。就職試験に向けて、面接・作文・学習指導をきめ細かに行う。	A	A		
		進学希望者に対して適切な情報提供を行い、面接・小論文・教科指導(進学対策講習)の充実を図るとともに、国公立大学等への進学を実現するため大学見学や関連セミナー参加など、入学当初から進学意識を高めるための行事等を計画・実施する。	A			
		ICT機器を活用した進路情報の取得技術や、オンラインでの面接等への対方法など、情報化社会の進展に合わせた進路指導手法を取り入れる。	A			
		保護者に対して各学年・担任・PTAと連携し、進路情報の提供及び進路相談を積極的に行う。	B			
	(生徒活動) 生徒が学校という社会の構成員であることを自覚し、よりよい学校を築く責任感を持ちながら、自主的に生徒会・農業クラブ活動を運営する。さらに全校生徒が一体となり、高校生活を充実させる。	生徒が生徒会活動・学校行事・農業クラブ活動に積極的に関わり、生徒の自主性を引き出し、充実した学校生活を実現させる。	B	B		
		クラブ活動の活動実態を把握し、生徒が積極的に参加できるよう、各部の活動の見直しを行う。部活動数の整理や外部指導員の活用を行う。	B			
		生徒会役員や農業クラブ役員が協力して行事の計画・運営に努め、学校を盛り上げる。農業クラブ活動に積極的に取り組み、活動・活躍の場を広げる。	A			
	(教育環境) 自己の健康に関心をもち、自律的に心身の健康管理ができるよう指導・支援する。 安全で快適な生活環境への関心を高め、改善できるよう支援する。	心身の健康管理が自主的にできるような健康教育(講演会・便り等による啓発)を行う。また、災害等の非常事態に際して、生徒の安全確保のため防災訓練を2回行う。	A	A		
		学校内の環境整備のために、清掃活動を徹底し、清掃状況を確認する。また、外清掃を行い、学校周辺の環境美化を意識させる。	A			
		PTA活動を工夫することで出席率を向上させ、学校への関心を高める。また、図書館の整備や情報発信等に努め、読書習慣の形成を促す。	B			
成 果	・今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、制限はあったが、昨年度の実践から各分掌や教科・学科等で工夫しながら進め、地域に根ざした教育活動に取り組み、専門高校としての役割を果たしてきた。特に、進路関係では、学年と進路指導部と各分掌が連携し、きめ細かく指導を行ったことにより、生徒の一人ひとりの進路実現が達成できた。 ・今年度は、稲作分野でG-GAP認証取得に向け、学校全体で取り組み成果を挙げた。次年度も継続認証に向け取り組むと共に、他分野でもG-GAPに関する内容を学習に取り入れていく。 ・ICT支援員によるICT活用校内研修を実施し、ICT機器の効果的な活用によって、わかりやすく質の高い授業改善が行われた。		総合評価			
	B					